

ワンチュク・タシ研究員（ブータン）



私は、中国とインドの間に位置するブータンから参りました、ワンチュク・タシと申します。2005年8月に、内務文化省の地方管理官として、ルンツェ県の土木関連の仕事を開始し、2015年に防災官に任命され、モンガル県の防災関連部署で勤務していました。

ルンツェ県では、県の開発計画の計画策定など、ブータン5カ年計画に関する業務にも携わってきました。国、地方における選挙、特に地方の社会経済の発展のプロセスなど、2006年から進められているブータンの民主化のプロセスにも関わってきました。また、2009年1月に来日し、地方の社会発展における理論と実践について学ぶ機会を得ました。

て学ぶ機会を得ました。

2010年中旬には、アジア開発銀行（ADB）の特待生に選ばれ、オーストラリア国立大学において、環境マネジメントと開発を勉強しました。オーストラリア国立大学の修士課程では、すぐれたマネジメントスキルや研究方法についても学ぶことが出来ました。ブータンに戻ってから、17の地域を管轄する大きな県のひとつで、勤務する機会を得ました。それらの体験はマネジメントスキルを活用し、地方の文化に触れるととてもいい機会になりました。

ブータンは災害が多く、険しい地形に住宅が立地していることで被害が拡大してしまいます。特にモンスーンの季節は、河川に沿って住居が立地しているため、地滑りや土石流が多く発生し、被害が非常に深刻になります。またそれらの災害に加え、地震などの災害により、甚大な被害が発生しています。

この度、アジア防災センターの客員研究員プログラムに参加できたことは、日本の防災関連機関による様々な防災活動を勉強するための絶好の機会を頂いたと考えています。これらの視察や講義で学ぶさまざまな方法や技術は、私の研究に役立つと共に、ブータンの地方開発計画における防災の主流化促進においても貢献できると思います。